

（毎月壹回十五日發行）

阿武郡報

第十六號

本誌体裁變更に就て

阿武郡報は大正三年六月初めて之を發行し爾來號を重ねること十有五専ら地方行政の伸展に資する所あらん事を期したるも時勢の進運に鑑み其の發行の度數に於て記事掲載の内容に於て改善進歩を策するの要あるを認め茲に其の体裁を改めて月刊と爲し併て内容の整理に意を加へ以て所期の目的を貫かんとす庶幾くは看者幸に其の意を諒せられんことを

大正六年十一月

阿武郡役所



◎戦後の準備

林本縣知事は戦後準備の對策實行を期せんとし周到なる調査研究を重ね左記八項を擧げて

- 一、青年團の指導
- 二、補習教育の改善
- 三、特用作物の奨励
- 四、蠶絲業の奨励
- 五、公有林野の整理
- 六、産業組合の經營
- 七、家庭工業の奨励
- 八、輸出品の奨励

具体的に訓令を發し且つ九月二十三日二十四日の兩日

大正六年十一月十五日印刷

大正六年十一月十六日發行

發行所 山口縣阿武郡役所

山口縣阿武郡萩町

第二千二百六番屋敷

印刷所 株式会社萩響海館

縣下各階級に屬する人士千六百名を山口に集め更に詳細なる訓示を與へ併せて朝野名士の剴切なる講演を聴取せしめ大に戦後準備の對策に就き共鳴共勵すべきことを勸奨せられたり

岡村郡長は歸郡後直に桂木郡視學藤井郡技手金子郡書記を隨へ左記日割に依り各地を巡回し最寄町村長縣郡町村會議員各學校長各種團体長其他地方有志者等を集めて實行協議會を開催し徹底共勵の事を約せり

實行協議會日割

期日	會場	集合町村名	出席人員
十月一日	生雲村役場	篠生、生雲、地福、德佐、高俣、吉部、彌富、小川、田万崎、宇田郷	五十一人
十月三日	須佐村 心光寺	秋、椿郷東分村、椿山田、三見	四十六人
十月五日	大井村 正樂寺	紫福、大井、奈古	四十人
十月六日	阿武郡會議事堂	山田、三見	四十六人
十月七日	明木村役場	明木、佐々並、川上	四十人
合計	五ヶ所	二十六ヶ町村	二百三十五人

指示並協議事項

(別冊の通り)

以上各所實行協議會に於て協定せし事項の概況を摘録せば左の如し

一、青年團及壯年團指導に關する件

青年團指導に關しては大正四年九月内務文部兩大臣の訓令兩省次官の通牒に依り本縣知事の訓令内務部長の通牒あり本郡亦其の趣旨を体して同年十一月各町村長及各小學校長に通牒するところあり爾來各地漸く其の組織を改造し團員の修養に努めしむるところありと雖も其の實績尙未だ充分なりと認め難し況や將來世界の競争場裡に於て列強と馳驅するに足るべき健全なる國民を養成せんとせば六ヶ年の義務教育を以てして現今の壯丁學力に甘んずるを得んや必ずや更に精神、智能、体力、とも相當の補習修養をなさしめ以て剛健なる國民善良なる公民となるべき素質を得せしめざるべからず是に於てか本縣知事は本年八月更に訓令を發し團員の最高年齢を截然滿二十歳に止むること、し以て精神修養、補習教育、体育獎勵に關する三大綱目を掲げ其の據るべき所を明示せらる仍て更に別記青年團設置要項並準則を定め其の實行を望む町村青年團指導の局に在る者誠意勵行に良好なる成績を擧げんことを期すべし青年團の發達を圖ると共に更に力を致すべきは壯年の

指導なり年齢廿一歳以上の壯年は比較的日新の智識と旺盛なる精力を有し實に地方開發の原動力たるべきものにして教育産業の振興、公益事業の促進は主として此等壯年の發奮努力に俟つもの多し是を以てか別に壯年團設置要項並準則を定め之が組織を望む町村當局者亦宜しく其の趣旨の存する所を領得し指導誘掖健全なる發達を遂げんことを期すべし

青年團設置要項並準則

町村青年團設置要項

一、設置區域

青年團は町村を區域として組織すべし

但土地の狀況に依り部落又は小學校通學區域等に支部を置くことあるべし

二、組織

青年團は町村内に於ける義務教育を終へたる者若くば之と同年齡以上の者を以て組織し其の最高年齢は滿二十歳とす

三、指導

青年團長は小學校長とし町村吏員、學校職員、警察官在郷軍人、神職僧侶、其他篤志者中適當と認むるものをして協力指導の任に當らしむること

四、施設

1、毎月一回以上教育に關する勸語を捧讀し且之を敷衍講説して聖旨の貫徹を圖り以て國民道德の涵養を期すること

2、一ヶ年を通じて五十回以上一回二時間以上の補習教育を行ひ生活上必須なる智識を收得せしむること但可成朝學となすこと

3、徒競走、綱引、劍道、柔道、角力、体操、其他体育上適當なる施設をなし青年志氣を鼓舞すると共に体力の増進を圖ること

五、維持

4、其他修養上適當と認むる事業の練習

青年團に要する經費は公共團體の補助、團員の勤勞により又は其他の收入を以て之を支辨すること

町村青年團準則

第一條 本團は何々町村青年團と稱し本町村内に住居し義務教育を終へたる者若くば是と同年齡以上の者にして滿二十歳迄の男子を以て組織す
但實業補習學校以外の學校在學中の者は此の限りにあらず本團は團員をして健全なる國民、善良なる國民たるに必要なる修養をなさしむるを以て目的とす

第二條 本團は第一條の目的を達する爲め左の施設をなすものとす

- 一、毎月一回例会を開き毎年一回總會を開き以て智徳の修養體力の鍛錬を行ふものとす
- 二、毎月一回教育に關する勅語を捧讀し且之を敷衍講説して聖旨の貫徹を圖り以て國民道德の涵養を期すること
- 三、毎年四月、十二月、一月、二月、三月、一週三回、一回二時間以上の補習教育を行ひ生活上必須なる智識を修得せしむること
- 四、徒競走、綱引、劍道、柔道、角力、体操、其他体育上適當なる施設をなし青年志氣を鼓舞すると共に體力の増進を圖ること
- 五、其他修養上適當と認むる事業の練習

第三條 本團に左の役員を置く

- 一、團長 一名
 - 二、副團長 一名
 - 三、幹事 若干名
 - 四、評議員 若干名
- 幹事及評議員の任期は二ヶ年とす但再選を妨げず本團に顧問若干名を置く

第四條 團長は團員を指導し團務を總轄し外部に對して本團を代表す

副團長は團長を補佐し團長事故あるときは之を代理す
幹事は團長の命を受け團務に従事す
評議員は本團重要な事項を審議す
顧問は團長の諮問に應ず

第五條 團長副團長は評議員會の決議により之を推戴す

幹事は團長之を指定す

評議員は團員の互選とす

顧問は團長之を囑託す

第六條 本團に左の支部を置く

- 一、……………
- 二、……………

支部には支部長、副支部長、支部評議員、支部顧問を置く支部役員は會員の互選とし其の任期を二ヶ年とす但し支部顧問は支部長之を囑託す

第七條 本團の經費は團員の共同又は各自の勤勞に依る收入、公共團體の補助、又は篤志者の寄贈による收入、會の基本財産より生ずる收入を以て之を支辨す
第八條 本則施行上必要なる細則は別に之を定む

町村壯年團設置要項

一、設置區域

壯年團は町村を區域として之を組織すべし但土地の状況により部落又は大字等に支部を置くことあるべし

二、組織

壯年團は町村内に於ける二十一歳以上の者を以て組織し其の最高年齢は滿四十歳を常例とす

三、指導

壯年團長は町村長を以てするを常例とし町村吏員、學校職員、警察官、在郷軍人、神職僧侶、其他篤志者中適當と認むる者をして協力指導の任に當らしむること

四、施設

- 1、修養の爲め時々次の講習講話會を開くべし
 - イ、教育
 - ロ、地方制度
 - ハ、軍事
 - ニ、産業
 - ホ、衛生及警察
- 2、左記の各項目より地方に適切なるものを選び公共事業を補助せしむべし
 - イ、町村統計材料の調査
 - ロ、學齡兒童就學出席の督勵

ハ、青年團員の補習學校入學督勵

- ニ、夜警消防の補助
- ホ、祝祭日神社參拜
- ヘ、神社境内の掃除
- ト、共同墓地の掃除
- チ、神社寺院祭典供養の補助
- リ、納税切符の配布及督促
- ヌ、納税の取纏及代納
- ル、貯金の取纏及預入
- ナ、衛生事務の補助
- ワ、警報信號標の揚卸
- カ、入退營者の送迎
- コ、現役應召者の家族、戦病死者の遺族、及廢兵免役者の扶助
- ク、共同耕作
- ケ、共同漁業
- コ、共同視察
- ツ、共同貯金
- ネ、磯掃除
- ナ、水難救済
- ラ、町村造林の植付下刈及保護

- ム、耕作道の補理掃除
- ウ、耕地整理及砂止、堰堤築造工事の請負
- ニ、農作物及森林害虫の驅除豫防
- ノ、荒蕪地の開拓
- オ、公有林防火線の設置
- ク、公有林火災の警防、及許可火入の立會
- カ、公有造林の植栽手下刈
- キ、柴草の共同採取
- ケ、米麥其他農作物の共同運搬
- コ、農産物の共同販賣の斡旋
- ク、市街地に於ける塵芥其他の肥料となるべきもの、蒐集利用
- エ、工業原料の研究
- テ、其他

五、維持

壯年團體に要する經費は團員の勤勞、又は其他の收入を以て之を支辨すること

町村壯年團準則

第一條 本團は何々町村壯年團と稱し本町村内に住居する年齢二十一歳以上の男子を以て組織す
本團は團員をして健全なる國民善良なる公民たるに

必要なる修養をなさしめ兼ねて教育産業の振興に公益事業の補助を圖るを以て目的とす
第二條 本團は第一條の目的を達する爲め左記事項を實行するものとす

- 一、講習講話會の開設
- 二、町村統計材料の調査
- 三、學齡兒童就學出席の督勵
- 四、青年團員の補習學校入學督勵
- 五、夜警消防の補助
- 六、祝祭日神社參拜
- 七、神社境内の掃除
- 八、共同墓地の掃除
- 九、神社寺院、祭典供養の補助
- 一〇、納税切符の配布及督促
- 一一、納税の取纏及代納
- 一二、貯金の取纏及預入
- 一三、衛生事務の補助
- 一四、警報信號標の揚卸
- 一五、入退營者の送迎
- 一六、現役應召者の家族戰病死者の遺族及廢兵免役者の扶助

- 一七、共同耕作
- 一八、共同漁業
- 一九、共同視察
- 二〇、共同貯金
- 二一、磯掃除
- 二二、水難救済
- 二三、町村造林の植竹下刈及保護
- 二四、耕作道の補理掃除
- 二五、耕地整理及砂止堰堤築造工事の請負
- 二六、農作物及森林害虫の驅除豫防
- 二七、荒蕪地の開拓
- 二八、公有林防火線の設置
- 二九、公有林火災の警防及許可火入の立會
- 三〇、公有林の植栽手下刈
- 三一、柴草の共同採取
- 三二、米麥其他農作物の共同運搬
- 三三、農産物の共同販賣の斡旋
- 三四、市街地に於ける塵芥其他の肥料となるべきもの、蒐集利用
- 三五、工業原料の研究
- 三六、其他

第三條 本團に左の役員を置く

- 一、團長 一名
- 二、副團長 一名
- 三、幹事 若干名
- 四、評議員 若干名

幹事及評議員の任期は二ケ年とす但再選を妨げず本團に顧問若干名を置く

第四條 團長は團員を指導し團務を總轄し外部に對して本團を代表す
副團長は團長を補佐し團長事故あるときは之を代理す

幹事は團長の命を受け團務に従事す
評議員は本團重要な事項を審議す

顧問は團長の諮問に應ず

第五條 團長副團長は評議員の決議により之を推戴す
幹事は團長之を指定す
評議員は員團の互選とす
顧問は團長之を囑託す

第六條 本團に左の支部を置く

- 一、.....
- 二、.....

支部に支部長、副支部長、支部評議員、支部顧問を置

く 支部役員は會員の互選とし其の任期を二ケ年とす
但支部顧問は支部長之を囑託す

第七條 本團の經費は團員の協同又は各自の勤勞に依
る收入公共團體の補助又は篤志者の寄贈に依る收入
會の基本財産より生ずる收入を以て之を支辨す
第八條 本則施行上必要な細則は別に之を定む

二、補習教育改善に關する件

本年八月二十一日山口縣訓令第三十二號を以て實業補
習學校施設要項を發布せられたれば各町村に於て未だ
其の趣旨に協はざるものは改正の計畫中なりと察する
も本日別に指定せる青年團指導方針と相應すべきも
のなれば此際速に之を改設し準義務たるべき方針を以
て銳意就學の獎勵を加へ其の普及に努むると共に教員
の優遇、設備の完成に就き經費の許す限り之が實行を
期し以て適切なる指導教養をなさんことを要す
左に各町村の狀況に鑑み特に注意すべき事項を摘記せ
り當事者宜しく此の旨を体し其の實績を挙げんことを
期すべし

阿武郡内實業補習學校施設に關する注意

一、設置

一、町村立實業補習學校は成べく小學校に附設し生徒
通學の便否を考へ適當の地域に於て分教室を設くる
こと
二、町村内に數個の實業補習學校を設置したる場合は
各校の聯絡統一を圖ること

二、修業年限

一、實業補習學校の修業年限は八ケ年とし尋常小學校
卒業より成年に達する迄修業せしむべし、之を區分
して豫科二年本科六ケ年とす
二、尋常小學校卒業生又は之と同等の學力あるものは
之を豫科一年に入學し高等小學校卒業生又は之と同
等の學力あるものは本科一年に入るゝを常例とす

三、學級編制

一、學級編制は豫科にありては學年別制を採り本科に
ありては學科別制を採るを常例とす

四、教授季節、教授時間並學年の始終

一、教授季節は通年のもの季節を限るもの又は二種併
置等土地の狀況に依り適宜之を定むること
二、教授季節を限るものにありては四月、十一月、一月

二月、三月、毎週三回教授するを常例とし必ず四月を
以て學年の始めとし三月を以て學年の終りとすべし
而して四月に於ては特に初年級に對し補習教育の性
質、青年團の性質等を鼓吹し小學級卒業後學習繼續
の念を保留増進せしむること

三、教授季節を限るものと雖も必ず毎月一回召集を行
ひ講話又は實地指導等をなし修學の念を斷絶せしめ
ざる様努むべし
四、教授日數教授時間及休業日等は土地の狀況に應じ
て必ずしも一定を要せずと雖も教授日數は少くとも
五十日以上とし教授時數は一回二時間以上とするこ
と

五、入學及出席

一、町村内丁年以下の青年は全部入學せしむること
二、學校長は生徒の出席簿を備ふること
三、學校長は學籍簿を調製すること

六、教科目

一、教科目は實業、修身、國語、算術、を必須科目とし地
方の狀況に依り法制經濟、地理、歴史、理科、をも併せ
課すること
二、土地の狀況に依りては國語中に漢文又はローマ字

を加へ地理歴史は之を國語に代用するも差支なきこ
と

三、女子の補習學校にありては其の實業事項として裁
縫又は園藝、養蠶、機織、染色等土地の狀況に依り適
當なる事項を選ぶこと

七、設備

一、附設實業補習學校の校舍は本校舎を利用すること
分教室にありては學校、寺院、教員住宅、青年會館、
其他民家を使用する等可成簡易方法に依ること
二、農業補習學校にありては可成實習地を設くること
但土地の狀況によりては生徒の家庭に於て實習せし
むるも妨げなきこと

三、女子の補習學校にありては裁縫洗濯家事其他染色
機織等の實習に必要な設備をなすこと

八、教員の待遇

一、普通學科の擔任者は成べく小學校本科正教員を以
て之に充つること
二、實業學科の擔任者としては成べく實業教員として
養成せられたるもの若くは郡市町村實業技術員其他
地方の實務家を以て之に充つること
三、可成一校専任の教師を置くを望む所なるも經費の

都合に依りては敷校若くは敷町村聯合して、専任の教員を採用し巡回教授の方法を講ずること
 四、教員に對しては勤勞又相當する俸給若くは手當を給すること

九、教授及訓練

- 一、學校長は教授要目を制定すること
- 二、教授季節を限りたるものに在りては各教科目中の事項は其の季節毎に教授を完了せしむべきは勿論凡て一齊教授に於ては毎回又於ける單元の教授を完結すべく努むべきこと
- 三、教授の内容は其の要項を印刷に附して配付する等生徒の便を圖ること
- 四、地方實業團體と連絡し或は試験場を利用し實習試験をなす等地方並時勢に適切なる指導をなすこと
- 五、學校長は管理規程を定め職員一致して訓育の任に當ること
- 六、生徒の家庭と密接なる連絡を圖ること

十、經費

- 一、町村は實業補習學校の施設經營に關し經費の許す限り十分なる費用を支出すること
- 二、授業料は成るべく徴收せざることを

三、産業獎勵の實行に關する件

今回縣に於て戰後準備の對策上最も緊要なる事項として特定せられたるものは何れも進んで其の獎勵振興を期せざるべからざるものなり宜しく官民一致して益々此機運を作興し其の實績を擧ぐるに努力せざるべからず左記各項は之が實行を期するに當り特に注意を要すべきものと認め之を列舉せり各位能く此の意を體し確實なる効果を收むべき様特に努力せられんことを望む

- 一、特用作物の獎勵
 - 1、今回縣に於て獎勵すべき特用作物として選定せられたるものは落花生、除虫菊、蘭、茶、山葵、三椏、生苡、薄荷、蕃椒、生姜、粟粟、等なるが之等の内一郡共通的に獎勵すべきものと各地特別に獎勵すべきものとの區分は充分考察選定するの要あるべきも町村に於て適當の方法を講じて土地の情勢に基き之を研究調査し特用作物の栽培獎勵に努力すべきこと
 - 2、町村は特用作物に就き種苗の購入配付に一段の注意を加へ進んで試作地又は採種圃をも設置するに努むること
 - 3、從來生産に全力を注ぐ割合に其價格を收むるに

- 4、特用作物栽培地適否の調査に關し郡技術員の派遣を要する場合は何時も其の求に應じ便宜を講ぜべきに依り豫め申出ありたきこと
- 5、郡内多數の地方には自然に委し放棄しある未開墾地尠しとせず此際適當の方法を講じ速に之を開拓し利用開發を圖るべきこと

二、蠶業の獎勵

- 1、蠶絲業獎勵費交付規則改正の主旨を體し又桑園の擴張改良に力を致すこと
- 2、桑苗は可成自家供給をなすに努めしむること
- 3、特別の事情ある町村の外農家一戸當一ヶ年平均八斗以上の收繭を見るべき様獎勵すべきこと
- 4、既設市場に近接せる町村の産繭は全部之を搬出し販賣取引をなすべき様一層獎勵を加ふべき事
- 5、郡の東部適當の地を選び可成速に完全なる繭市場を設置すべきこと
- 6、養蠶業の獎勵に付ては突飛的無謀の計畫は嚴に

三、町村有林野の整理

- 之を戒め専ら着實穩健なる發達をなすべき様町村當局者に於て特に注意すべきこと
- 今回町村有林野整理規則を發布せられ整理の方法を具体的に指示せられたり其の概要左の如し
- 1、町村有林野を左の四種に區分すること
 - 1、營林地區、柴草採收地區、貸付地區、不要存置地區、營林地區は更に之を分ちて町村直營林と部分林の二種とすること
 - 2、柴草採收地區は更に之を分ちて使用區域割當地と豫備地の二種とすること
 - 3、貸付地區は地上權、木小作權の設定、賃貸借、使用貸借等の契約をなし得ること
 - 4、不要存置地區は小面積の林野にして賣却する事以上の通り整理方法制定の趣旨は法律的に双方確實なる契約を結び林地の使用を周密ならしめんとせられたるものなるが故に其の意のある所を察し左記の順序により速に整理を斷行すること
 - 5、入會の整理をなすこと
 - 2、柴草採收地、營林地、貸付地、不要存置地區の四種に區分すること

- 3、管理區分の變更認可申請をなすこと
 - 4、林野條例を制定すること
 - 5、柴草採收地區は使用區域割當地と豫備地とに區分すること
 - 6、不要存置地區の處分をなすこと
 - 7、營林地區を町村直營林と部分林とに區分する事
 - 8、營林地區に對しては施業計畫案を編成すること
 - 9、貸付地區に對しては貸付の手續をなすこと
- 四、産業組合の改良發達
- 1、今回新に制定せられたる産業組合監督規程は専ら組合の改善發達に關し細心の注意を拂はれたるものなるにより其の精神の存する所を體し銳意振肅刷新を加へ業務の整善機能の發揮に努むること
 - 2、郡内町村中未だ産業組合の設置を見るに至らざるもの八ヶ村あり即ち左の如し
三見村 生雲村 高俣村 福川村 田万崎村 須佐村 六島村 見島村
未設の村は各特別の事情の存するものなるべしと雖も戦後の對策を定むるに於て喫緊の要務なることを覺り此際速に之を設置すること

- 3、各信用組合を通し此際別紙準則に據り貯金組合を組織し組合員をして月掛規約貯金を勵行せしむること
 - 4、資金の運用に留意すると共に貸付金の回収を確實に勵行すべきこと
 - 5、産業組合長は此際町村長農會長等と協議研究を重ね地方産業の實狀に鑑み戦後準備共勵事項の發達を促す爲め特別低利資金の貸付をなすべきことを講究し尙ほ且地方小生産業者の負債又は頼母子返掛等に關し困窮しつゝあるもの、爲めに特別低利にして長期の貸付をなし財政整理をなさしむること
- 五、家庭工業の奨励
- 1、家庭工業としての種類は固より多種多様なるべきも今回縣に於て確實と認め指示せられたる種類は左の如し
經木及麥稈眞田 團扇骨 竹箸 疊表
縣は之と同時に調査研究の上選定を要すべきものと認め發表せるもの左の如し
紙製品 狀袋 紙製帽子
木製品 杉箸 小楊子 杞柳細工 蝙蝠傘柄原

- 料の採收加工
- 竹製品 傘骨 傘柄
蓆製品 籐表 通蓆細工
雜 釣鈎 鼻緒 棕櫚葉表 經木織 貝鉤 齒刷毛
- 2、經木麥稈眞田は何れの土地に於ても老幼婦女子に於て常時從事する事を得べき最も適當なる家庭工業なり各所確實なる事業主の奮起を促し本事業の普及發達を見るに至るべき様努力すべき事
 - 3、經木原料たるべき「イモギ」は本郡内比較的多くの地方に在り之等の地方に於ては今後特別注意を加へ其の切株及稚木を愛護すると同時に之が造林法を研究すること
本郡は竹材殊に豊富にして其の品質亦良好なるを以て盛に之が加工をなし製造販賣をなすに至らば其利益甚なからざるべし
 - 4、團扇骨、竹箸、ナイフ、ホーク、傘骨、傘柄、石炭籠及美術的加工品等有望なる事業發達の余地誠に多し速に相當方法を講じ之等事業の發達を圖るべきこと
 - 5、萩御許町竹工所は主として美術的工業品並石炭

- 運搬用籠の製作をなし尙ほ事業擴張の目論見をなしつゝあり附近町村に於ては之等のものと連絡を保ち地方の福利を増進すべき様努むべきこと
- 6、竹枝皮は需用多く大阪着相場拾貫目に付金拾圓乃至拾參圓なりと聞く各町村とも老幼者をして之が蒐集に努めしむること
 - 7、盛に蘭作を奨励し自村需用の疊表は之を製造使用すべく村産奨励の方針を採ること
 - 8、自村需用の外他に移出すべき製品は其の改良統一に留意し販賣移出の方法に就きては可成廣く聯絡を保ち共同的動作を採ること
 - 9、製茶、製紙に就きては改良發達の余地尠なからざるべし組合組織を確實にし事業の發達を圖る事
 - 10、萩堀内紙製帽子の製造は前途有望なる事業なりと信ず附近町村に於ては之と連絡を保ち地方適當なる家庭工業として其發達を見るに至るべき様努力すること
- 六、輸出品の奨励
- 1、本縣輸出品の多くは礦産物並工藝品等大工場が生産に係はるものなるも簡單なる家庭的手工品及農林水産物等發展の余地あるもの亦尠しとせ

ざるべし各地之が調査研究に一段の力を加へ適當なる事業の振興を策せられたること
2、本郡に於て現に製造輸出するものは

- 鐵産品 銅 亞鉛
 - 工業品 眞田 紙製帽子 貝卸
 - 農林産物 綠茶 五倍子 竹材
 - 水産物 鰯 鱈 煮干鰯 鹽鰯
- 等なり之等の事業に就きては尙ほ大に獎勵發達の余地存すべく此の外本郡の實情上製絲業の勃興を必要とすべし充分の研究を遂げ實行を期せられたること

3、輸出品は粗製、濫造に陥らざる様特に注意を要すること

4、縣は輸出品の獎勵振興を期する爲め左記の場合に於て相當補助すべきことを發表せり事業經營の參考に資すること

- イ、機械器具の購入並設備若くは事業費に對し相當補助金交付
- ロ、製品販賣に要する荷造費及運賃に就き實費以内補助交付
- ハ、當業者の團體に於て技術員雇入の場合相當費

金補助
ニ、將來輸出品の製造に従事すべき適當の者他府縣工業徒弟學校に入學の場合修業費の幾分補助
貯金組 規約 準則

第一條 本組合員は互に戒めて勤儉相勵み各自の恒産を造り恒心を養ふを以て目的とす

第二條 本組合は何々規約貯金組合と稱す

第三條 本組合の存立期限は二十ヶ年とす

第四條 本組合に左の役員を置く

組合長一名 副組合長一名 貯金世話掛 何名

組合長及副組合長は組合員の選舉を以て之を定め貯金世話掛は十戸毎に互選により之を定む

第五條 組合長及副組合長の任期は三ヶ年とし貯金世話掛の任期は一ヶ年とす

補缺選舉により就任したる役員は前任者の任期を繼承す

第六條 組合員は毎月拾錢以上必ず貯金すべき義務あるものとす

第七條 組合員は互番に毎月十五日各戸に就て貯金を取集め貯金世話掛へ差出すべきものとす

第八條 貯金世話掛は各組合員別の貯金袋を備へ置き

貯金を受領せば直ちに各袋へ夫々分納すべき者とす

第九條 貯金世話掛は毎月十六日自己世話區域内の貯金と貯金通帳とを組合長へ差出すものとす

第十條 組合長は貯金世話掛より貯金と貯金通帳とを受領せば即日信用組合へ持參して記入を受け直に各世話掛へ貯金通帳を返戻すべきものとす

第十一條 貯金世話掛が組合長より貯金通帳の返戻を受けたるときは之を各組合員へ示したる後自己の手に保管すべきものとす

第十二條 組合長事故あるときは副組合長其職務を代理するものとす

第十三條 貯金は左の場合を除くの外引出さざるものとす

- 一、天災に罹りて經濟困難に陥りたるとき
 - 二、疾病に罹りて經濟困難に陥りたるとき
 - 三、區域外に轉住したるとき
 - 四、其他不得已得事由發生したるとき
- 第十四條 前條に掲げたる理由に基き貯金を引出さんとするものは組合長の承認を経ることを要す
- 第十五條 貯金の義務を怠り再三役員より注意を受けたるも尙之に従はざるものは總會の決議により除名

するものとす

右の規約堅く遵守可致依て茲に記名調印す

年月日 氏名 印

以下 連署

以上各所實行協議會に於て協定せし事項の概況を摘録せば左の如し

一、青年團改造、壯年團の組織實業補習學校の改正等の實施に付ては各町村直に着手實行すること、せり就中農繁期に際會し集合困難なるものは十月三十一日迄に實施することに決定す

二、公有林野の整理に付ては各村共直に之れが整理實行に着手すること、せり就中多年解決に至らざりし明木、佐々並、兩村の入會整理は十月十五日より二十日に至る間に於て兩村關係者一同佐々並村に會合して圓滿なる協定を遂ぐる事に決定す

三、蠶糸業の獎勵として本年より萩町に於て郡農會の施設に係る繭市場を開設せり之れが價格の順調なりし爲め著しく養蠶業の發達を促し來春郡内に於て植栽せんとする桑苗既に百萬本以上を算し尙増加の壯況を呈せり殊に郡の東部に於ては相當産苗を有し將來に於ても進歩發達の見込あるが故に夙に繭市場設

庶務

優良團體及篤志教育家表彰

十月卅一日天長節祝日の佳辰をトし本郡内に於ける優良團體及篤志教育家の表彰式を郡會議事堂に於て舉行せり當日表彰の光榮を得たるものは明木村、私立萩婦人會修善女學校及椿東尋常高等小學校訓導金子虎吉にして表彰文並事績の概要左の如し

阿武郡 明木村

協同緝睦克く公共の事に竭し自治事務の改善教育産業の振興成績見るべきもの甚からず今後一層戮力奮勵益々其の實績を擧げんことを期すべし仍て金五拾圓を授與し茲に之を表彰す

大正六年十月卅一日

山口縣阿武郡長正七位勳六等 岡村勇二

明木村事績概要

村は萩町と南に隔つること約二里の地に在り地勢一般に山嶽多く明木川幾多の支流を合して村の中央を流れ各部落其間に介在す村民多くは農を以て主業となし養蠶畜牛木炭製造を副業とす民俗敦厚にして共同の念厚

く園村自ら緝睦和樂の一郷を成せり

現村長藤井倉太郎明治四十二年就職以來重任今日に至る恪勤精勵一日の如く克く力を事務の整理と村治の啓發とに致し指揮常に宜しきを失はず助役内藤九郎收入役中谷秀作共に事務に練達し能く村長を補佐し村務の整善に努力す書記亦何れも其の職務に忠實熱心なり隨て文書處理の如き概ね即日之を辨へるを例とし嘗て滯滞のことあるを見ず殊に期限事務に關しては係員總て所管事務に係はる期限事務登載の衝立を用ひ月毎に之を繰り出し其の期限を愆ることなきを期し村勢調査原簿戸籍簿印鑑簿等重要簿冊の正確整頓を期するに用意の周到なること誠に稱すべきものあり記録簿冊の編綴保存に就ては更に一段の注意を加へて全部之を縦式に改め部門を分ちて索引を附し適確に記録臺帳に登録して配列保存せる等文書の處理簿冊の編綴敏活整頓常に井然たるものあるは他に多く其の類例を見ざる所なり役場は明治二十二年町村制實施の際に於て建築せるものなるも時の村長瀧口吉良能く時勢の趨く所を遠觀して村民の應待接遇の事を察し當時早くも事務室の構造を土間式となせり現時縣下の優良村として名高き右田村役場の建築の如き範を本村役場に採りたるものなり

と聞く瀧口吉良は夙に一村の衆望を負ひ如斯町村制實施の當時擧げられて第一次の村長となり専ら庶務の改良刷新に腐心し自治の本義を闡明にして團體の基礎を鞏固にするに努め後職を人に譲りたるも一面村會開設の當初より引續き村會議員となり勤儉今日に至る村内公共の事大小となく必ず之に與らざることなし一村の啓發民風の作興其の徳風化導に基くもの極めて多し理事者と村會との間亦能く融合調和し議事極めて靜謐圓滿なり村會開設以來流會となりたること一回もなく村長提出の原案につき削減修正を加へたるが如きこと亦殆んどなし

納税の成績に就きては當局者の苦心を諒すべきものあり明治四十二年の交までは情實纏綿して滞納者常に多く現任村長就職後深く之を遺憾ありとし奮然起て自己の經營せる桃李園を擲て滞納矯弊に着手し助役收入役と共に百方を致し或は示談會を各部落に開き或は納税組合を組織し或は納期限表を配付して周到なる注意を加ふる等指導獎勵至らざるなしこの間村長助役收入役等の苦心蓋し想像に餘りあり或る時は風雨を冒して行程里餘の山間部落に至り夜を徹して家に歸り臥床既に鶏鳴曉を報ずること再三なることあり或は嚴寒肌

を刺すの夕積雪尺餘に及ぶ時峻坂を越えて目的の部落に至れば既に戸を鎖して起さず漸くにして家に入るを得れども集合者なき爲め空しく恨を呑んで歸り來ることありたるが如く幾多の艱難と闘ひては益々勵み遂に村民を動かして納税思想の普及徹底を現實にし大正二年度以降國縣村税を通じ毎期完納の實績を擧ぐるに至れり公衆衛生上の施設に就きては各種多樣の方法備はれり且雖も村内各部落に設立せる衛生組合の活動力あるものゝ如し隔離病舎は明治二十七年中の設立にして其の設備全しと云ふを得ざるも其の構造堅牢概ね適宜なり大正五年に至るまで嘗て一人の傳染病患者を出したることなかりしも昨年不幸にして患者續殺數人に及びたり病舎建築十八年後に至り始めて使用開始せる如きは稀に見る所なり

教育の事に關しても亦當局の意を用ふる所多し村に尋常高等小學校一分教場一實業補習學校一圖書館一を有し公學費綜して貳千七百圓を要す尋常高等小學校は明治三十二年に於て高等科を併置し從來の校舍漸く腐朽狹隘となり更に新に地を現在の位置に相して校舍全部の移轉改築を企て費金壹萬參千圓を投じて之を造營し大正五年四月知事の責歸を仰ぎて落成式を舉行せり規

模構造其の宜しきに適ひ採光通風の事に至る迄何等の
 缺陷を殊に大典紀念として築造せる光華臺の設備一
 段の光彩を添ふ斯の如くにして外観の美を加へたるの
 みならず内容の整頓亦大に努むる所あり校長以下教員
 何れも年少氣銳の者を以てし戮力熱心其の職に勵み成
 績見るべきものあり特に児童教育の改善進歩を期する
 には學校と家庭との連絡を實行徹底せしむるの要あり
 とし屢々父兄懇話會を開きて児童教養の方針を明にし
 或は父兄をして授業を參觀せしめ或は教員自ら家庭を
 訪問し或は兒童身體發育の情況を審にして保育擁護の
 大切なることを知らしむる等細心意を用ひて餘す所な
 し實業補習學校は創立後日尙淺きも教授訓練適良にし
 て教育の効果見るべきものあり朝學制度を採りて出席
 歩合の好成績を示し青年指導の適當なるものあるを見
 るは亦喜ぶべきことなりとす圖書館は村の篤志家瀧口
 吉良の獻策に依り特別寄附に基き日露戰役の記念とし
 て建設せるものなり備ふる所の圖書參千七百冊最近一
 箇年間の閱覽者八千九百人の多きを算せり
 舊小學校は之を修理保存して村公會堂として各種公會
 の事に利用し構内各種記念物を集め加ふるに目下貳千
 數百圓の義金を蒐集して戰死病歿者の爲めに忠魂碑建

設の事を企劃し其の實行に着手しつゝあり
 在郷軍人分會は幹部の指導宜しきに適ひ規律整正日常
 の訓練優秀にして隣村佐々並村の分會と共に出色の譽
 あり青年會亦能く在郷軍人分會と提携して修養訓練に
 努め成績見るべきものあり年々徴兵検査執行に際し體
 格に於て規律節制に於て學力補習の實績に於て常に郡
 内上位の地歩を占めつゝあるもの蓋し偶然ならざるべ
 し
 農事の改良につきても又意を用ひざるなし生産調査に
 基く米作改良增收の十年計畫は常に豫期以上の數字を
 示し種子の改良肥料の配合堆肥製造の事より害虫の驅
 除、深耕作實行の事に至る迄各部相勵みて良好の成
 績を收め農事講習會農作物品評會亦年々行はれざるな
 し村農會は明治三十六年の設立に係り専ら普通農事の
 改良栽桑養蠶の獎勵及畜牛改良獎勵に重きを置き特設
 の技術員常に巡回指導に達めつゝあり就中養蠶業は近
 時著しく發達の域に進み大正元年には飼育戸數七十戸
 收繭九拾六石に過ぎざりしも本年の飼育戸數は百參拾
 六戸收繭百九拾八石の多數に上り畜牛は大正元年の百
 參拾四頭に比し大正五年に至り一躍して貳百四拾五頭
 に達し木炭製造業亦發達見るべきものあり

信用組合の創立は大正元年十月にして其の當時の組合
 員は僅に百七拾八人に過ぎざりしも今や其の組合員參
 百四拾人に及び出資金五千七百七拾圓貯金四萬八千參百
 貳拾圓準備及特別積立金壹千八拾圓を有するに至り産
 業經濟の助成發達に資する所甚大なり而して本組合が
 斯の如く順調に發達せるは村當局の督勵指導宜しきに
 依ると雖も亦村有力家瀧口清作理事として専ら經營の
 衝に膺り其の忠實熱心なる努力に俟つもの多きに依る
 ものと信ず村に調和會なるものあり村民の論争訴訟の
 事を未然に防ぎ兼ねて德義互讓を旨とし一致和親を期
 するを以て目的とせり又婦人團體として女子因會なる
 ものあり瀧口房子之が會長となり専ら婦徳の修養に努
 め又兼ねて日常家事禮法の事より實業獎勵の事に至る
 まで會の事業として互に實行に勵み成績見るべきもの
 あり報徳會は大正五年十月花田中佐巡回講演の後村内
 各部落に之を設け其の數十三を算す毎回出席者多數に
 上り協議實行の事項何れも相競ふて實踐力行に餘念な
 く岡村の美風自ら其の源泉を此に得つゝあるの觀あり

私立萩婦人會修善女學校
 會員協同一致多年本校の經營に努め職員亦克く女子教

育の事に竭し特に裁縫手藝の成績見るべきものあり今
 後尙一層戮力奮勵益實績を擧げんことを期すべし依て
 獎勵金參拾圓を授與して茲に之を表彰す
 大正六年十月三十一日

山口縣阿武郡長正七位勳六等 岡村勇二

私立萩婦人會修善女學校事績概要

本校は明治二十三年阿武郡萩町本派本願寺別院内に婦
 人の信者より成れる修善講の發起に依り其講金の幾分
 を割き宗教的講演を以て女子に須要なる徳操の涵養と
 裁縫生花茶法等の教授指南とをなすが爲め創設せしも
 のを以て其濫觴となす後事情の爲め一時廢滅の悲運
 に際會したることありしが更に明治三十六年二月同院
 内に設置の萩婦人會の發起により之を復舊し新堀好生
 館を假舎として全八年十一月私立萩婦人會修善女學
 校と稱し開校するに至れり時に從五位杉民治校長たり
 四十三年十二月杉校長死去し四十四年三月波多野公輔
 其后を襲ひ現今に至る波多野校長就任と同時に規則の
 改正を行ひ修身裁縫及体操を必須科目とし之れに美術
 習字造花刺繡生花茶法の隨意科目を加へ大に生徒の教
 養に努めし結果生徒數頗る増加し假舎に收容するに
 能はざる盛況を呈するに至るや校舍新築の議起り萩

婦人會資金と各地寄附金とにより地を晋水の濤なる荒神社趾に卜し大正二年五月工を起し同年九月竣へ直に新校舍に移轉せり大正三年より生徒數又大に増加し校運益發展す乃ち新に良教師を聘し倍々女子に須要なる智識技能の教授及婦徳の涵養に努め今や完全なる私立女子教育機關たるに至れり明治三十六年二月再興以來生徒を入學せしむること六百五十名卒業生を出すこと二百三十名の多きを算す校長以下教員八名大正六年度の經費總額壹千七百四拾五圓補助金約七百圓にして大日本佛教慈善財團及萩町費を初め毛利公爵安子の方全公爵令夫人毛利男爵令夫人及藤田氏久原氏等の同情甚厚し而して本校は主として裁縫手藝の發達に重きを置き修身齊家の事に努力する所あるを以て卒業生は何れも中産家庭の良主婦となり其の社會に貢獻するところ寔に尠少にあらざる之れ實に三百有餘名の萩婦人會員多年協同一致不屈不撓本校の經營に力めし結果と本校職員の克く緝睦和衷其の任を盡せるに基因せずんばあらず希くは今後益々校運隆昌成績愈々優良ならんことを

阿武郡椿東尋常高等小學校訓導
金子 子 虎 吉

多年小學校教育に従事し格勩精勵克く教授訓育の功を積み且夙に佛教少年會及夜學會を開設し日夜兒童の薰陶感化に努めて倦むことなく功績洵に掛しとせず今後尙一層奮勉益盡する所あるべし仍て金貳拾圓を授與して茲に之れを表彰す
大正六年十月三十一日

山口縣阿武郡長正七位勳六等 岡村勇二

阿武郡椿東尋常高等小學校
訓導金子虎吉事績概要

慶應二年四月五日阿武郡萩町に生れ明治六年萩五間町小學に入學し明治九年より十五ヶ年間萩町先覺者に就き國史漢籍習字算術等の諸學科を修め明治廿五年山口縣小學校教員豫備學科講習所に於て規定の學科を修め尋常小學校本科准教員免許狀を受け同廿九年山口縣尋常師範學校講習科を卒業して尋常小學校本科正教員免許狀を受く明治十五年より小學校教育に従事し爾來三十五年間阿武郡内濱崎北斗明倫佐々並越々濱椿東各小學校教員に歴任し現任校在職實に二十餘年の久しきに及べり資性温厚にして篤實特に孝養の志厚く且つ自ら奉ずること極めて儉素にして而かも常に公共慈善に喜捨することを唯一の樂となせり幼にして佛教に歸依し

夙に眞俗二諦の妙旨を體得し且其教義によりて少年の信仰を涵養し國民道徳の念慮を進むるの目的を以て同志の士と相圖り明治十八年二月本派本願寺萩別院内に巴城佛教少年會なるものを創立し毎日曜日を以て勤行法話訓話御佛唱歌遊戯の六科目を課し自ら身を捧げて少年教養の任に膺り三伏の炎暑を忘れ峭烈の寒威を意とせし腦漿を絞り心血を凝らして會の指導に盡し惇々教へて倦まざること實に三十有餘年現在會員一千六百名每會出席者八百名を上下せり大正四年御大典紀念として本山より優勝旗を下附せらる蓋し全國八百餘の少年會中其の設立最も早く其の成績最優良なるに依るが爲めなりと云ふ少年會の後援として萩佛教青年會あり毎月一回先覺の講座を開く夙に其の講師たり又別に普通學科復習の目的を以て明治十八年六月温知學會と名くる夜學會を自宅に設け爾來繼續すること亦實に三十有三年年間を通じ毎夜所定の時刻に附近小學校兒童又は其の卒業生徳風を慕ひ恰も慈母に親むが如く百有餘名もの相集り復習的夜學をなして渝らざること終始一日の如し
職を教育界に奉じてより春風秋雨實に三十有五年其間全く寢食を忘れ終日終夜身を教育の事に委ね一意専心

子女の教養をなすを以て自己の天職となし至誠一貫國家社會に貢獻せるもの之れ誠に教育者の儀表たるものなりと信ず又家に在りては常に孝道に勵み老母の孝養に竭すこと茲に年あり弟精一克く兄の心を體し亦小學校教育に奮勵し少年會夜學會の務に服して何等倦怠の色なし其他弟妹業を勵み友情誠に濃なり是固より庭訓宜きを得たるに基因するものあるに依ると雖も君が至誠熱心の化導に職由する所多きに居らずんばあらず希くは今後益々自重奮勵大職を全ふせんことを

□ 條例 許可

- 本年一月以降町村條例の許可せられたるもの左の如し
- 大正六年一月九日 彌富村長有給條例廢止條例
- 同 一月十六日 嘉年村住民印鑑條例
- 同 一月廿七日 同村手數料條例
- 同 一月卅日 徳佐村柴草刈場使用條例
- 同 二月六日 六島村公告式條例
- 同 二月十七日 椿村基本財産蓄積條例
- 同 二月十九日 六島村住民印鑑に關する條例
- 同 三月十三日 山田村手數料條例
- 同 三月十五日 山田村住民印鑑に關する條例

同	三月十五日	小川村手敷料條例
同	三月廿日	山田村督促及納付命令手敷料條例
同	三月廿九日	明木村手敷料條例
同	三月廿九日	椿郷東分村公告式條例中改正條例
同	三月廿九日	同村督促手敷料條例中改正條例
同	三月廿九日	吉部村傳染病豫防救治に從事する者に關する給與條例
同	四月六日	高俣村手敷料條例
同	四月六日	福川村手敷料條例追加並料金改正の件
同	四月四日	德佐村林野收益分與條例
同	四月十日	椿郷東分村住民印鑑に關する條例
同	四月十六日	椿村共葬墓地使用料徴收條例
同	五月九日	川上村住民印鑑に關する條例
同	五月十一日	川上村草刈場使用條例
同	七月廿六日	佐々並村公告式條例
同	八月六日	山田村基本財産蓄積條例
同	八月六日	山田村小學校基本財産蓄積條例
同	十月十一日	椿村印鑑に關する條例

兵 事

□士官候補生及一年志願兵採用

大正六年度に於て士官候補生に採用せられたる人名左の如し

士官候補生志願者 三十三名

採用者

萩町 飯田 秀夫
椿村 藤原 忠治

主計候補生志願者 十名

採用者 なし

大正六年度に於て一年志願兵に採用せられたる人名左の如し

配賦隊號	兵種	住所	氏名
步兵第七十一聯隊	主計生	萩町	大賀 保雄
輜重兵第五大隊	輜重兵	全	村田 芳彦
全	全	全	村田 喜一
第一師團	主計生	全	栗飯原 重三
步兵第七十一聯隊	全	全	小澤 亮一
步兵第四十二聯隊	步兵	全	松村 正一

配賦隊號	兵種	住所	氏名
步兵第七十一聯隊	主計生	椿村	羽鳥 陳
步兵第四十二聯隊	步兵	山田村	來島 真介
全	全	全	河内 利作
全	全	全	秋山 宗一
重砲兵第四聯隊	重砲兵	全	山田 昌
全	全	三見村	横山 平次郎
步兵第四十二聯隊	步兵	全	寺田 實藏
全	全	小川村	小河 吉郎
未定	全	萩町	藤村 良作

大正五年度一年志願兵採用者にして翌年廻となりたる者

辞 令

熊毛郡水産技手 工藤 金綱

任山口縣阿武郡水産技手 (九月十四日)
給月俸參拾五圓

任山口縣阿武郡技手 (九月廿九日)
給月俸壹圓

阿武郡書記 大井 音一

任山口縣屬 (十月五日)
給九級俸

阿武郡書記 繩田 誠記

庶務係長ヲ命ス (十月六日)

阿武郡書記 阿武 道助

依願免本官 (十月廿五日)

阿武郡會計吏員 原田 幸範

御用済に付本職を解く (十月卅一日)

郡書記 繩田 誠記

(各通)

郡書記 植村 茂作
全 金子 清一
全 永田 恒一
全 齋藤 民治
全 三村 庄吉
全 山本 莊輔
全 吉田 耕造
郡視學 桂木 彦一
郡技手 藤井 二郎

ABUGUNPO

郡技手 三好照夫
 全 奥田雅晴
 全 福田茂穂
 第五師團機動演習ニ關スル事務委員ヲ命ス
 大正六年十一月一日

阿武郡書記 繩田誠記
 阿武郡役所雇 原田幸植
 依願解雇 (十一月二日)

山口縣立萩中學校書記ニ任ス (十一月二日)
 七級俸給與 原田幸植

樺東尋常高等小學校訓導兼校長 信國顯治
 兼樺東圖書館長ニ任ス (十月二十日)
 阿武郡立萩圖書館書記 溝部壯六
 月俸貳拾五圓給與 (十月卅一日)

町村吏員異動
 至六年二月其日就職明 木村長藤 井倉太郎 再選
 同 四月九日就職見 島村長谷川房次郎 同

同 四月廿二日就職	地福村	收入役	村上	與作	同
同 五月廿二日就職	小川村	收入役	下浦	義市	同
同 四月十九日就職	佐々並村	收入役	三浦	正藏	同
同 三月十五日就職	萩町	助役	中村	龜吉	新選
同 三月十四日就職	田万崎村	助役	有田	龜吉	新選
同 三月十二日就職	佐々並村	助役	梅田	一郎	再選
同 十月一日就職	山田村	長	大田	民藏	再選
同 八月十一日就職	樺東分村	長	厚東	毅一	新選
同 五月卅一日就職	富村	長	松井	章吉	同
同 五月卅一日就職	佐々並村	長	山崎	文輔	再選
同 五月十八日就職	福村	長	岡市	五郎	同
同 五月三日就職	田万崎村	長	岡崎	義弼	新選
同 四月廿日就職	大井村	長	山根	辨作	再選

ABUGUNPO

同五月廿六日就職 三見村 收入役 古田 爲藏 同
 同五月廿九日就職 篠生村 收入役 河村 藏吉 同

阿武郡立實科高等女學校教諭 沼田 恒
 大阪府へ出向ヲ命ス (十月二日)

給九級俸 (十月二日) 同
 教諭 堀江ウタコ

給六級俸 (十月二日) 同
 助教諭 田中タカコ

月俸貳拾參圓給與 (十月二日) 同
 助教諭心得 齋藤タカ

月俸貳拾貳圓給與 (十月二日) 同
 女教諭心得 田村 繁

依願解本職 (十月廿九日) 同
 女教諭心得 齋藤タカ

萩商業學校助教諭心得 佐方克己
 月俸拾貳圓給與 (九月十一日)

樺東尋常高等小學校訓導兼校長 信國顯治
 奏任官ヲ以テ待遇セラル (十一月一日)

任篠目尋常小學校訓導 (十月十六日) 植村 雪子
 給九級上俸

任奈古尋常高等小學校准訓導 (十月廿日) 長山 智員
 給六級上俸

兼野戶呂農業補習學校訓導ニ任ス (九月十八日)
 兼野戶呂尋常高等小學校校長 若松良太郎

兼見島實業補習學校訓導ニ任ス (十月十八日)
 兼見島尋常高等小學校訓導 多田 守家

兼大井實業補習學校訓導ニ任ス (十月十八日)
 兼大井尋常高等小學校訓導 横山 出

兼大井實業補習學校訓導ニ任ス (十月廿六日)
 兼大井尋常高等小學校訓導 河野カツ

- 一 聖人は尺の壁を貴ばずして寸の陰を重んず
- 一 天下の務は當に天下と之を共にすべし豈一人の智の能く獨り了する所ならんや
- 一 善を行ふは以て名の爲めにせず而して名之に従ふ
- 一 善を爲すも名に近づくなかれ惡を爲すも刑に近づくなかれ
- 一 世人若し善を行ふより生ずる快樂の半だも知り得たらんには更に善を行ふこと多からん
- 一 治を爲すは多言にわらず力行如何と顧るのみ
- 一 既往の諫めざるを悟り來者の追ふべきを知る

阿武郡報第十六號附錄

參 考 資 料

ABUGUNPO

(1)

學校名	職員	強健	中等	薄弱	兒童	強健	中等	薄弱	體檢	強健	中等	薄弱
明倫東	一	一	一	一	九	二	二	一	二	二	二	一
椿西濱	三	三	三	三	九	二	二	一	二	二	二	一
白木	六	六	六	六	九	二	二	一	二	二	二	一
三木	三	三	三	三	九	二	二	一	二	二	二	一
明並	一	一	一	一	九	二	二	一	二	二	二	一
佐高	一	一	一	一	九	二	二	一	二	二	二	一
長上	一	一	一	一	九	二	二	一	二	二	二	一
川瀨	一	一	一	一	九	二	二	一	二	二	二	一
野呂	一	一	一	一	九	二	二	一	二	二	二	一
立生	一	一	一	一	九	二	二	一	二	二	二	一
篠目	一	一	一	一	九	二	二	一	二	二	二	一
持坂	一	一	一	一	九	二	二	一	二	二	二	一
合計	一七	一七	一七	一七	九	二	二	一	二	二	二	一

一、小學校職員及兒童身體檢查體格比較表

大正六年五月末調

目次

- 一、小學校職員及兒童身體檢查體格比較表
- 二、小學校尋常科男兒童體力調查比較表
- 三、小學校尋常科女兒童體力調查比較表
- 四、小學校高等科兒童體力調查比較表
- 五、大正六年度現役徵集人員
- 六、大正六年第二回米作豫想一覽
- 七、町村基本財産調査表
- 八、小學校基本財産調査表
- 九、公私(國、縣、町村稅)負擔狀況

ABUGUNPO

(3)

學校名	尋	一順位	二順位	三順位	四順位	五順位	六順位
明倫東	二五、三	二六、八	二五、一	二四、三	二〇、七	一九、五	一九、九
越濱	二五、四	二六、一	二五、〇	二四、四	二〇、八	一九、六	一九、〇
椿西	二五、五	二六、二	二五、一	二四、九	二〇、〇	一九、〇	一九、〇
白木	二四、四	二六、四	二五、〇	二四、七	二〇、三	一九、〇	一九、〇
三木	二六、四	二六、一	二五、一	二四、四	二〇、八	一九、六	一九、〇
明見	二五、七	二六、一	二五、九	二四、一	二〇、二	一九、七	一九、〇
明木	二五、二	二六、一	二五、五	二四、一	二〇、二	一九、八	一九、〇
佐並	二五、六	二六、一	二五、五	二四、一	二〇、二	一九、八	一九、〇
長高	二三、九	二〇、二	二三、六	二〇、五	一五、〇	一三、〇	一一、〇
川上	二七、〇	二〇、〇	二三、〇	二〇、〇	一五、〇	一三、〇	一一、〇

二、小學校尋常科男兒童體力調查比較表

大正六年度

見相大多下上
島島島磨川川

七 | 五六二四

| 二一九二 |

| | | | |

二〇四 | 一四〇 | 一九四 六四

三 | | 一九七 一九一 一八

| | | 二 三 二

一七三 | | 八五 四三 三七

三 | | 一九七 二九 一三

| | | 二 一 五

ABUGUNPO

(2)

學校名	職員	兒童	身體	檢
生雲	三五	七〇	健	查
地藏	四三	三三	中	等
地福	六六	一〇	薄	弱
德山	六六	三五	強	健
嘉年	七六	二二	中	等
高侯	六六	二二	薄	弱
吉部	六六	二二	強	健
半福	九六	二二	中	等
紫井	二〇	二二	薄	弱
大古	二〇	二二	強	健
奈田	二〇	二二	中	等
宇田	二〇	二二	薄	弱
福英	二〇	二二	強	健
彌富	二〇	二二	中	等
鈴野	二〇	二二	薄	弱
小川	四	二	強	健

ABUGUNPO

白	椿	越	椿	明	學校名	備考	見	相	大	多	下	上	小	鈴	彌	育	福
水	西	濱	東	倫	尋	本表ハ其一ヨリ其三ニ至ル迄總テ秒ヲ以テ單位トス	島	島	島	磨	川	川	川	川	富	英	田
二六、四	二六、八	二九、一	二七、一	二六、六	一順位		二五、八	二五、六	二五、〇	二九、八	二六、六	二六、五	二六、〇	二五、五	二七、二	三〇、一	
一三	一五	一六	一七	一四	二順位		一三	一〇	一五	三〇	二五	二九	二九	二九	三三	三三	
二四、三	二三、四	二六、二	二四、三	二五、四	三順位		二四、二	二三、五	二三、〇	二七、八	二五、七	二五、七	二六、〇	二三、八	二四、五	二七、五	
五	三	二五	二五	一三	四順位		一三	三	六	二六	二二	二二	三	四	一四	二五	
二三、四	二三、〇	二七、四	二三、二	二三、六	五順位		二三、二	二三、九	二三、〇	二六、四	二四、八	二三、九	二三、〇	三三、八	三三、一	三三、九	
九	二	三	七	一〇	六順位		一三	一六	一一	二七	二五	一八	一九	一七	一三	一八	
二三、四	二〇、五	二五、七	二三、六	二二、九	七順位		二〇、九	二〇、七	二二、〇	二六、四	二三、三	二三、〇	二二、〇	二二、七	二〇、〇	二三、三	
一三	二	二六	一四	七	八順位		一一	九	二	二六	三	三〇	二〇	一三	一六	四	
一八、六	二〇、二	二三、一	一九、九	二二、四	九順位		一八、八	一九、〇	二二、〇	二五、五	二三、一	二三、三	二二、〇	二〇、七	一九、五	二二、七	
二	五	三	四	一一	一〇順位		四	五	一六	二五	二三	二三	一六	一四	七	一九	
一八、九	一九、七	二三、二	二〇、七	一九、八	一一順位		一八、〇	一九、九	二二、〇	二四、五	二三、〇	二二、四	二〇、〇	二〇、五	一八、三	二〇、九	
二	六	二	一三	七	一二順位		二	一〇	一六	二四	二三	一九	一一	一四	三	一五	

大正六年度

ABUGUNPO

宇	奈	大	紫	半	福	吉	高	嘉	龜	德	地	藏	生	持	篠	篠	立	野	高
田	古	井	福	田	川	部	俣	年	山	佐	福	喜	雲	坂	目	生	野	呂	瀬
二九、〇	二六、四	二五、九	二六、〇	二五、〇	二六、七	二六、三	二四、〇	二七、一	二五、五	二五、六	二九、三	二六、六	二六、五	二六、二	二五、〇	二五、四	二六、五	二六、〇	
二七	一六	一三	一四	一五	一九	二四	三	二	二九	一〇	二六	一八	一七	一五	五	八	一七	三	
二七、〇	二三、四	二三、八	二四、八	二五、〇	二四、七	二五、五	二二、〇	二四、一	二三、九	二三、九	二五、五	二四、六	二三、五	二四、八	二二、〇	二四、五	二三、四	二七、〇	
二四	八	四	六	一七	一九	二	二	五	五	一九	一五	九	一六	二	四	八	二四		
二四、五	二二、八	二二、七	二三、四	二三、〇	二二、八	二二、三	二〇、〇	二三、三	二二、五	二二、五	二三、〇	二二、八	二三、〇	二三、〇	二三、三	二三、七	二六、〇		
二三	一〇	九	二	一一	一〇	一四	一	二〇	六	七	七	一〇	一〇	一七	二	一四	一六	二六	
二三、一	二一、八	二〇、七	二四、七	二〇、〇	二〇、五	二二、七	一七、〇	二四、七	二〇、一	二二、一	二二、三	二二、一	二二、三	二三、六	二〇、九	二二、二	二五、〇		
二	七	九	四	八	一六	一	二四	五	三	一五	一三	一五	一三	一五	一三	一四	一四	二五	
二三、〇	二〇、八	二〇、一	二三、二	二〇、〇	一九、四	二〇、七	一八、〇	二三、〇	二〇、〇	一九、四	二〇、七	二〇、六	二〇、七	二二、六	二〇、〇	二〇、六	二〇、五	二四、〇	
二〇	一五	一一	二	一〇	六	一四	二	二〇	八	一〇	一六	一四	一八	一七	一〇	一三	二	二四	
二〇、〇	二二、三	一九、九	二二、四	二〇、〇	一八、六	二〇、〇	一九、〇	二二、四	一八、五	一九、九	二〇、二	一九、八	二〇、四	二〇、二	一九、〇	二二、七	一九、七	二四、〇	
二	一八	一〇	一一	一五	二	二七	一九	四	六	二	九	八	二	七	二	二	二	二	

ABUGUNPO

(7)

見相大多下上小鈴彌育福字奈大紫半福吉
 小小野
 島島島磨川川川川富英田田古井福田川部

元、〇	二七、〇	二六、〇	三三、二	二六、五	三三、五	二九、〇	二九、七	二九、七	三三、八	三〇、〇	二七、〇	三三、九	三〇、〇	二七、〇	二六、一	三三、三
一〇	六	二	三	一	三	一	八	一	六	九	六	二	七	一	六	二
三、五	二六、六	二五、〇	二九、〇	二六、七	二七、九	二七、〇	二六、一	二六、二	三〇、一	二九、〇	二五、一	二六、六	二五、七	二四、〇	二四、七	二七、九
一	二〇	八	二	二	四	三	一	六	一	七	二	六	九	二〇	一四	四
三、八	二四、一	二四、〇	二九、七	二四、七	二七、二	二四、〇	二四、九	二四、〇	二六、一	二六、五	二六、二	二四、三	二四、六	二三、〇	二二、五	二四、七
五	一	三	二	四	一	二	一	六	一	八	二〇	三	一	四	一〇	六
三、四	三、四	二、〇	二七、四	二四、〇	二四、二	二四、〇	二四、二	二四、二	二五、四	二四、〇	二二、二	二三、三	二〇、六	二〇、〇	三、五	三、一
三	三	四	二	六	三	八	八	一	〇	二	五	三	五	一	三	一
二、六	二〇、六	三〇、〇	二七、五	二四、六	二四、八	二四、一	二四、八	二二、九	二四、〇	二四、三	二三、七	二三、二	二三、六	二二、〇	二〇、八	二、九
一	三	六	四	七	四	二	二	〇	一	三	四	六	一	九	一	三
一、九	二、六	二〇、〇	二五、八	二四、五	二四、七	二四、〇	二四、四	二四、八	二四、六	二四、六	二四、八	二四、六	二四、〇	二〇、〇	一、九	二、七
三	一	六	二	七	四	二	二	一	五	一	六	二	二	一	四	八

四、小學校高等科兒童體力調查比較表

大正六年度

ABUGUNPO

(6)

高嘉龜德地藏生持篠篠立野高川長佐明三木
 目 戶 々
 俣年山佐福喜雲坂目生野呂瀬上高並木見間

二七、〇	二九、五	二七、二	三三、六	三三、四	二七、九	三三、〇	二六、八	二六、〇	二七、〇	二七、一	三三、〇	二五、〇	二六、七	二六、八	三〇、七	三三、一	二六、三
六	七	八	二	三	九	二	五	〇	六	七	一	二	四	五	二〇	三	三
二五、〇	二七、九	二五、三	二四、六	二七、二	二五、六	二六、三	二六、五	二三、〇	二六、一	二四、六	二九、〇	二四、〇	二四、四	二五、四	二五、二	二四、六	二六、〇
八	二	一	六	三	三	一	八	一	九	二	六	六	二	四	一	〇	六
二四、〇	二四、一	二三、三	二三、九	二四、五	二三、八	二四、三	二三、三	二三、〇	二四、七	二四、〇	二六、〇	二三、〇	二六、三	二四、〇	二四、五	二三、六	二四、六
二	三	四	一	五	五	四	八	六	一	七	二	三	六	一	二	一〇	六
二、〇	二四、八	二三、六	二三、九	二三、一	二三、六	二三、三	二三、〇	二四、一	二二、八	二二、八	二七、〇	二二、〇	二三、五	二三、四	二二、〇	二二、三	二二、〇
四	二	四	一	五	九	四	一	六	一	六	三	六	二	四	二	四	五
二、〇	二三、五	二〇、八	二二、二	二〇、三	二三、〇	二三、四	二二、〇	二二、六	二二、四	一九、六	二〇、七	二六、〇	二四、〇	二三、〇	二二、〇	二〇、七	二三、八
九	三	八	一〇	五	五	二	六	九	三	七	一	二	二	七	九	七	二〇
二〇、〇	二三、二	二〇、三	一九、二	二三、〇	二二、〇	二二、四	二〇、六	二四、〇	二二、九	一九、七	二五、〇	二二、〇	二三、〇	二三、七	二〇、二	二〇、三	二二、四
八	三	一〇	四	一	九	四	一	五	一	一	二	五	一	六	一	九	一

學校名 尋 一 順位 尋 二 順位 尋 三 順位 尋 四 順位 尋 五 順位 尋 六 順位

ABUGUNPO

(9)

町村名	種目	人員
篠川佐明三山椿椿萩	步兵	一八〇八八六三六二五
々	騎兵	
生上並木見田分	砲兵	一
	工兵	
	電信	
	輜重兵	
	輜卒	一 一 二 二 三 一 二 二
	水兵	
	機關兵	
	計	三 一 〇 四 二 二 三 四 三 三

五、大正六年度現役徵集人員

町村名	種目	人員
見大多小彌育福	步兵	四二一 四二一 三六八 三九五 四三七 三六〇
島島磨川富英田	騎兵	
	砲兵	一七 二 三 三 一 〇 三
	工兵	
	電信	
	輜重兵	
	輜卒	四一七 四七〇 四六六 四六三 四四〇 四五〇
	水兵	
	機關兵	
	計	四〇〇 四五〇 四五〇 四〇七 四〇五 四六〇
	計	五 一八 一八 八 七 二

ABUGUNPO

(8)

學校名	高	順位	男	高	順位	女	高	順位
宇奈大紫福吉高嘉德地生篠川佐明三白椿椿明	一	一	一六	一	一	一五	一	一
々	二	二	一六	二	二	一五	二	二
田古井福川部俣年佐福雲生上並木見水西東倫	一	一	一六	一	一	一五	一	一
	二	二	一六	二	二	一五	二	二
	三	三	一六	三	三	一五	三	三
	四	四	一六	四	四	一五	四	四
	五	五	一六	五	五	一五	五	五
	六	六	一六	六	六	一五	六	六
	七	七	一六	七	七	一五	七	七
	八	八	一六	八	八	一五	八	八
	九	九	一六	九	九	一五	九	九
	十	十	一六	十	十	一五	十	十
	十一	十一	一六	十一	十一	一五	十一	十一
	十二	十二	一六	十二	十二	一五	十二	十二
	十三	十三	一六	十三	十三	一五	十三	十三
	十四	十四	一六	十四	十四	一五	十四	十四
	十五	十五	一六	十五	十五	一五	十五	十五
	十六	十六	一六	十六	十六	一五	十六	十六
	十七	十七	一六	十七	十七	一五	十七	十七
	十八	十八	一六	十八	十八	一五	十八	十八
	十九	十九	一六	十九	十九	一五	十九	十九
	二十	二十	一六	二十	二十	一五	二十	二十

ABUGUNPO

町村名	種目	八、小學校基本財産調査表	大正六年三月三十一日現在
須賀	土地	一三、二四三	二一、七八〇
須賀	造林	四、〇三〇	一三、四六四
須賀	建物	四六八	四九、八四二
須賀	有價証券	四、二六〇	一一、七七七
須賀	現金	二四八	一九、九六七
須賀	穀類	六八	一一、〇二二
須賀	其他諸品		一、九六七
須賀	總計金額		一、一七六
福賀	土地	一三、二四三	六四、七〇四
福賀	造林	四、〇三〇	一、一七六
福賀	建物	四六八	
福賀	有價証券	四、二六〇	
福賀	現金	二四八	
福賀	穀類	六八	
福賀	其他諸品		
福賀	總計金額		
彌富	土地	六、三三三	六四、七〇四
彌富	造林	七、七六	一、一七六
彌富	建物	六五	
彌富	有價証券	二、三八〇	
彌富	現金	五、八九九	
彌富	穀類	六八	
彌富	其他諸品		
彌富	總計金額		
小川	土地	二六、九〇二	六四、七〇四
小川	造林	二、六四四	一、一七六
小川	建物	六五	
小川	有價証券	二、三八〇	
小川	現金	四、〇二二	
小川	穀類	六八	
小川	其他諸品		
小川	總計金額		
田崎	土地	三、三三一	六四、七〇四
田崎	造林	三、〇四四	一、一七六
田崎	建物	六五	
田崎	有價証券	二、三八〇	
田崎	現金	二、一六七	
田崎	穀類	六八	
田崎	其他諸品		
田崎	總計金額		
六島	土地	一〇、七七〇	六四、七〇四
六島	造林	七、〇三〇	一、一七六
六島	建物	六五	
六島	有價証券	二、三八〇	
六島	現金	一、一七六	
六島	穀類	六八	
六島	其他諸品		
六島	總計金額		
見島	土地	三、七六、八二七	六四、七〇四
見島	造林	一、六六、三三七	一、一七六
見島	建物	一、七六三	
見島	有價証券	六二、一二〇	
見島	現金	五、四二二	
見島	穀類	五、四四五	
見島	其他諸品		
見島	總計金額		
合計	土地		六四、七〇四
合計	造林		一、一七六
合計	建物		
合計	有價証券		
合計	現金		
合計	穀類		
合計	其他諸品		
合計	總計金額		

ABUGUNPO

町村名	種目	八、小學校基本財産調査表	大正六年三月三十一日現在
椿郷東分	土地	一六、一三四	九、七六七
椿郷東分	造林	五九〇	三、四、二六五
椿郷東分	建物	四、〇〇〇	五、五五〇
椿郷東分	有價証券	四、九六〇	一一、〇六五
椿郷東分	現金	二、二七九	二五、三九六
椿郷東分	穀類	四、二〇〇	三、二七二
椿郷東分	其他諸品	七、七二	七、一一
椿郷東分	總計金額		
山見田	土地	一八、〇〇〇	九、七六七
山見田	造林	四、二〇〇	三、四、二六五
山見田	建物	五、八五六	五、五五〇
山見田	有價証券	二、〇〇〇	一一、〇六五
山見田	現金	九四六	二五、三九六
山見田	穀類	四、二六	三、二七二
山見田	其他諸品	八、九一	七、一一
山見田	總計金額		
明木	土地	一、二〇八	九、七六七
明木	造林	七、七二	三、四、二六五
明木	建物	六二〇	五、五五〇
明木	有價証券	五、〇〇〇	一一、〇六五
明木	現金	九四六	二五、三九六
明木	穀類	四、二六	三、二七二
明木	其他諸品	八、九一	七、一一
明木	總計金額		
川上	土地	一四、五六二	九、七六七
川上	造林	五、八五六	三、四、二六五
川上	建物	一、四三五	五、五五〇
川上	有價証券	一、九〇〇	一一、〇六五
川上	現金	三、三五八	二五、三九六
川上	穀類	八〇	三、二七二
川上	其他諸品	九、九一	七、一一
川上	總計金額		
篠生	土地	一七、六六一	九、七六七
篠生	造林	一、九〇〇	三、四、二六五
篠生	建物	四、八〇〇	五、五五〇
篠生	有價証券	二、〇〇〇	一一、〇六五
篠生	現金	三、二九四	二五、三九六
篠生	穀類	二、八二	三、二七二
篠生	其他諸品	二、〇〇〇	七、一一
篠生	總計金額		
地福	土地	四、四一〇	九、七六七
地福	造林	二、七、九二五	三、四、二六五
地福	建物	三、六〇〇	五、五五〇
地福	有價証券	一、六〇〇	一一、〇六五
地福	現金	三、六二七	二五、三九六
地福	穀類	一、〇三〇	三、二七二
地福	其他諸品	二、五〇〇	七、一一
地福	總計金額		
嘉年	土地	二六、三三一	九、七六七
嘉年	造林	四、七六〇	三、四、二六五
嘉年	建物	一、二〇〇	五、五五〇
嘉年	有價証券	二、九〇〇	一一、〇六五
嘉年	現金	四、四四七	二五、三九六
嘉年	穀類	一、六一	三、二七二
嘉年	其他諸品	二、九	七、一一
嘉年	總計金額		
高保	土地	六、四六一	九、七六七
高保	造林	五、〇〇〇	三、四、二六五
高保	建物	八七三	五、五五〇
高保	有價証券	八、二五〇	一一、〇六五
高保	現金	四、四一九	二五、三九六
高保	穀類	二、九	三、二七二
高保	其他諸品	二、九	七、一一
高保	總計金額		
福川	土地	一〇、六〇〇	九、七六七
福川	造林	一〇、五〇〇	三、四、二六五
福川	建物	八七三	五、五五〇
福川	有價証券	五、五〇〇	一一、〇六五
福川	現金	四、四一九	二五、三九六
福川	穀類	二、九	三、二七二
福川	其他諸品	二、九	七、一一
福川	總計金額		
紫井	土地	四、三〇五	九、七六七
紫井	造林	七、二	三、四、二六五
紫井	建物	二、七〇〇	五、五五〇
紫井	有價証券	二、七〇〇	一一、〇六五
紫井	現金	五、五三	二五、三九六
紫井	穀類	二、九	三、二七二
紫井	其他諸品	二、九	七、一一
紫井	總計金額		
大井	土地	二六、三八五	九、七六七
大井	造林	二、五、八四二	三、四、二六五
大井	建物	二、八〇三六	五、五五〇
大井	有價証券	二、七〇〇	一一、〇六五
大井	現金	五、五三	二五、三九六
大井	穀類	二、九	三、二七二
大井	其他諸品	二、九	七、一一
大井	總計金額		
奈古	土地	二六、七三六	九、七六七
奈古	造林	二、八〇三六	三、四、二六五
奈古	建物	二、八〇三六	五、五五〇
奈古	有價証券	二、七〇〇	一一、〇六五
奈古	現金	五、五三	二五、三九六
奈古	穀類	二、九	三、二七二
奈古	其他諸品	二、九	七、一一
奈古	總計金額		
宇田郷	土地	四、六九一	九、七六七
宇田郷	造林	六、〇〇〇	三、四、二六五
宇田郷	建物	八二〇	五、五五〇
宇田郷	有價証券	四、二五〇	一一、〇六五
宇田郷	現金	四、七五一	二五、三九六
宇田郷	穀類	六四	三、二七二
宇田郷	其他諸品		七、一一
宇田郷	總計金額		

ABUGUNPO

町村名	九、公租負擔狀況		全一人當面	積	一方里當
	公租總額	現住戶數			
萩	六二、五八五	三、四六三	一七、三五三	三、六〇六	一一、七五八
椿	三三、一四一	一、六七六	八、七九二	三、七六九	三三、一四一
山	一五、〇七八	五、四一	二、四八七	六、〇六二	一、〇〇〇
三	一八、六四四	五、四一	五、二四七	三、五五三	一九、〇七九
明	一三、〇〇八	九、四五	三、六四〇	三、五七六	一、〇〇〇
佐	一三、一三四	四、四二	二、四七九	五、二九八	四、八四
川	一四、三六二	四、六三	二、七四五	五、二九八	四、八四
篠	一六、二〇一	七、四五	三、八三七	四、二二二	一、〇〇〇
生	一四、二四二	四、六三	二、四七九	五、二九八	四、八四
地	一九、九三三	五、一	二、七四五	五、二九八	四、八四
德	一五、二八五	九、六五	四、六五三	四、二八三	三、二〇〇
嘉	二六、七〇〇	六、三〇	三、二七六	四、六六五	二、七〇〇
高	一四、一五五	一、二〇	二、〇七九	六、八〇八	三、八〇〇
吉	一五、四七〇	五、〇二	二、〇七九	六、四一三	二、一〇〇
福	一六、二六六	五、三三	二、六〇二	六、二三五	二、三〇〇
井	二〇、九二二	八、六一	四、八四三	四、六六七	四、五七
大	一七、四七九	六、二八	三、一八七	六、五六一	六、九

大正五年度

ABUGUNPO

町村名	九、公租負擔狀況		全一人當面	積	一方里當
	公租總額	現住戶數			
生	八〇〇	七〇	一、二五七	一、二五七	三、二七
地	一、四五五	四〇	一、九六〇	一、三五三	一四、八〇七
德	六〇三	二〇三	一、五五五	二二二	一、九七〇
高	一九	五〇	八八二	二〇三五	二、〇三五
吉	二、〇三〇	一八〇	六七二	八八一	八八一
福	三〇〇	五〇	六九四	一六〇	二、九七四
大	三〇〇	二〇〇	七二二	一六〇	四、六一四
奈	一〇	五九	一六三	一六〇	一、三四三
宇	四九	三〇	一、〇〇〇	一八	八七
須	一七	三〇	四九	一、〇五三	二、〇六二
彌	五〇	五七	二八二	四九	四一九
小	二九	三〇	二七二	二、七六一	二、三五二
田	二九	五七	一、七六九	一、三三	二、七六八
六	二九	五七	一、七六九	一、三三	三、二六五
見	二九	五七	一、七六九	一、三三	三、二六五
合	一七、二六七	五、二六五	一、六九九	一六〇	六二、四三三

ABUGUNPO

町村名	種目	租稅	現住戶數	全一戶當	現住人口	全一人當	積	一方里當
明木	畝	四、一〇六	四四二	九、二八九	二、四七九	一、六五六	四、四八	九一六
佐並	畝	四、三〇六	四六三	九、三八六	二、七四五	一、五八三	四、八四	八九七
川上	畝	三、三〇三	七四五	四、四三三	三、八三七	八六〇	五、一五	一、二五
篠生	畝	三、六〇二	五一一	七、〇四八	二、六六〇	一、三五四	三、二〇	一、一五
地福	畝	七、二二五	九六五	七、三八三	四、六五三	一、五三一	四、七三	一、五〇六
德年	畝	五、五三五	六三〇	八、七八五	三、二七六	一、六九九	二、七〇	二、〇五〇
嘉俣	畝	一、二二三	一、二一〇	一〇、〇一八	五、三九二	二、二四八	三、八〇	三、一九〇
高部	畝	四、六三四	五〇二	九、一三二	二、〇七九	二、二二八	二、一〇	二、二〇六
吉川	畝	四、九三三	五三四	九、二三五	二、四一二	二、〇四四	二、二〇	二、二四一
福井	畝	六、六一一	五六五	一一、七〇〇	二、六〇二	二、五四〇	二、三八	二、七七七
紫井	畝	八、三八二	八六一	九、七三五	四、八四三	一、七三〇	三、四八	二、四〇八
大古	畝	七、四一六	六二八	一一、八〇八	三、一八七	二、三二六	四、五七	一、六二二
奈古	畝	五、三三四	五四七	八、一八四	三、二〇一	一、三九八	三、八五	六、四八八
宇賀	畝	二、九六七	四一七	六、一五二	四、三九一	一、二二四	一、八二	一、三九五
須賀	畝	五、六九〇	六四七	八、七九四	二、九九六	一、八九九	四、七七	一、一九二
須賀	畝	六、一三四	四一七	七、一五五	二、二四六	一、三三一	一、八二	一、六三〇
小富	畝	四、三三〇	六二五	六、九一二	五、五四九	一、五〇三	二、〇五	二、九八七
彌富	畝	八、四六五	一、〇〇〇	八、四六五	四、一八〇	二、〇二五	二、四三	一、七七七
小川	畝	五、四五四	七九五	六、八六〇	四、二八二	一、二七四	一、二〇	三、六八〇
田島	畝	八、四六五	七九五	六、八六〇	四、二八二	一、二七四	一、二〇	四、五四五
六島	畝	五〇八、八三三	二、八六三	二二、二七三	一一、一九三	四、五四六	七、九五	七、一七一
見島	畝	五〇八、八三三	二、八六三	二二、二七三	一一、一九三	四、五四六	七、九五	七、一七一
合計	畝	五〇八、八三三	二、八六三	二二、二七三	一一、一九三	四、五四六	七、九五	七、一七一

ABUGUNPO

町村名	種目	租稅	現住戶數	全一戶當	現住人口	全一人當	積	一方里當
明木	畝	四、一〇六	四四二	九、二八九	二、四七九	一、六五六	四、四八	九一六
佐並	畝	四、三〇六	四六三	九、三八六	二、七四五	一、五八三	四、八四	八九七
川上	畝	三、三〇三	七四五	四、四三三	三、八三七	八六〇	五、一五	一、二五
篠生	畝	三、六〇二	五一一	七、〇四八	二、六六〇	一、三五四	三、二〇	一、一五
地福	畝	七、二二五	九六五	七、三八三	四、六五三	一、五三一	四、七三	一、五〇六
德年	畝	五、五三五	六三〇	八、七八五	三、二七六	一、六九九	二、七〇	二、〇五〇
嘉俣	畝	一、二二三	一、二一〇	一〇、〇一八	五、三九二	二、二四八	三、八〇	三、一九〇
高部	畝	四、六三四	五〇二	九、一三二	二、〇七九	二、二二八	二、一〇	二、二〇六
吉川	畝	四、九三三	五三四	九、二三五	二、四一二	二、〇四四	二、二〇	二、二四一
福井	畝	六、六一一	五六五	一一、七〇〇	二、六〇二	二、五四〇	二、三八	二、七七七
紫井	畝	八、三八二	八六一	九、七三五	四、八四三	一、七三〇	三、四八	二、四〇八
大古	畝	七、四一六	六二八	一一、八〇八	三、一八七	二、三二六	四、五七	一、六二二
奈古	畝	五、三三四	五四七	八、一八四	三、二〇一	一、三九八	三、八五	六、四八八
宇賀	畝	二、九六七	四一七	六、一五二	四、三九一	一、二二四	一、八二	一、三九五
須賀	畝	五、六九〇	六四七	八、七九四	二、九九六	一、八九九	四、七七	一、一九二
須賀	畝	六、一三四	四一七	七、一五五	二、二四六	一、三三一	一、八二	一、六三〇
小富	畝	四、三三〇	六二五	六、九一二	五、五四九	一、五〇三	二、〇五	二、九八七
彌富	畝	八、四六五	一、〇〇〇	八、四六五	四、一八〇	二、〇二五	二、四三	一、七七七
小川	畝	五、四五四	七九五	六、八六〇	四、二八二	一、二七四	一、二〇	三、六八〇
田島	畝	八、四六五	七九五	六、八六〇	四、二八二	一、二七四	一、二〇	四、五四五
六島	畝	五〇八、八三三	二、八六三	二二、二七三	一一、一九三	四、五四六	七、九五	七、一七一
見島	畝	五〇八、八三三	二、八六三	二二、二七三	一一、一九三	四、五四六	七、九五	七、一七一
合計	畝	五〇八、八三三	二、八六三	二二、二七三	一一、一九三	四、五四六	七、九五	七、一七一

ABUGUNPO

町村名	種	目	稅額	現住戶數	全一戶當	現住人口	全一人當	面積	一方里當						
德佐	嘉年	高俣	吉部	福川	紫福	大井	奈古	宇鄉	福賀	須佐	彌富	小川	田崎	六島	見島
六、三五九	二、八五八	二、九七七	三、一九二	三、九〇六	三、三九六	三、九二八	二、三二〇	三、四二八	五、三三三	二、八四七	五、〇五二	四、六七六	一、二七八	一、三九三	
一、二一〇	五、〇二	五、三四	五、六四九	五、八六二	六、二一九	六、一七七	四、五三〇	五、五三九	五、〇六九	四、五五五	五、〇五二	五、八八一	二、七五	三、九二	
五、二五五	五、六九三	五、五七四	五、六四九	五、八六二	六、二一九	六、一七七	四、五三〇	五、五三九	五、〇六九	四、五五五	五、〇五二	五、八八一	二、七五	三、九二	
五、三九二	二、〇七九	二、四二二	二、六〇二	四、八四三	三、一八七	三、二〇一	四、三九一	二、九九六	五、五四九	二、七五一	四、一八〇	四、二八一	二、〇五六	二、五七八	
一、一七九	一、三七四	一、三三四	一、二二六	一、〇四二	一、二二五	一、〇五五	八九四	一、一四四	九五九	一、〇三四	一、二〇八	一、〇九二	六二	五四〇	
三、八〇	二、一〇	二、二〇	二、三八	三、四八	四、五七	三、八五	一、八二	四、七七	二、〇五	二、四二	二、三〇	一、二〇	三、二〇	五三	
一、六七三	一、三六〇	一、三五三	一、三四一	一、四五〇	八五四	一、〇一〇	四、八九七	一、二八九	二、五九六	一、一七六	二、一九六	三、八九六	三、九九	二、六二八	

ABUGUNPO

町村名	種	目	稅額	現住戶數	全一戶當	現住人口	全一人當	面積	一方里當
萩	椿鄉	山田	三見	明木	佐並	川上	篠生	生雲	地福
一六、九七一	七、〇九四	三、一九三	三、九四五	二、九三三	二、九三六	三、三四二	二、八六二	四、七七七	三、八二八
三、四六三	一、六七八	五、四一	九四五	四四二	四六三	七四五	五一	九六五	六三〇
四、九〇〇	四、二二七	五、九〇二	四、一七四	六、六四二	六、七三四	四、四八五	五、六〇〇	四、九五〇	六、〇七六
一七、三五三	八、七九二	二、四八七	五、二四七	二、四七九	二、七四五	三、八三七	二、六六〇	四、六五三	三、二七六
九七七	八〇六	一、二八三	七五一	八〇〇	一、一三四	一、一八四	一、〇七五	一、〇二六	一、一六八
方里 五、五六	一、〇〇	九八	九八	一、〇〇	四、四八	四、四八	五、一五	三、二〇	四、七三
三〇、三〇五	七、〇九四	三、三六一	四、〇二五	二、九一三	六、四五	六、四五	八、九四	一、〇〇九	一、四一七

ABUGUNPO

(21)

合	見	六	田	小	彌	須	福	宇	奈	大	紫	福	吉	高	嘉
計	島	島	崎	川	富	佐	賀	郷	古	井	福	川	部	俣	年
二三八、二四〇	三、六五六	三、七六二	一〇、六六六	一〇、二六七	六、七三七	一一、二九〇	五、一八四	四、八三〇	一〇、二七五	九、六三三	九、五九〇	九、一七七	六、四三三	七、五六一	六、六六三
二、八六三	三九二	二七七	七九五	一、〇〇〇	六二五	一、〇五〇	六四七	四一七	八六七	五四七	六二八	八六一	五六五	五三四	五〇二
一〇、八九六	九、三二六	一三、五八一	一三、四一六	一〇、二六七	一〇、七九九	一〇、七五三	八、〇二二	一一、五八二	一一、八五一	一七、五九二	一五、二七〇	一〇、六五八	一一、三六八	一四、一五九	一三、一七二
一一、九一三	二、五七六	二、〇五六	四、二八一	四、一八〇	二、七五一	五、五四九	二、九九六	二、二四六	四、三九一	三、二〇一	三、一八七	四、八四三	二、六〇二	二、四一一	二、〇七九
二、二二八	一、四一八	一、八二九	二、四九二	二、四五六	二、四四八	一、〇三四	一、七三〇	二、一五〇	二、三四〇	三、〇〇六	三、〇〇九	一、八九四	二、四六八	三、一三四	三、一〇四
七〇、九五	五三	三、一〇	一、一〇〇	二、一〇	二、四二	二、〇五	四、七七	一、八二	三、八五	四、五七	三、四八	二、三八	二、一〇	二、一〇	二、一〇
三、三六六	六、八九八	一、一七五	八、八八八	四、四六三	二、七八三	五、五〇七	一、〇八六	二、六五三	一三、九四六	二、六六八	二、六三七	二、六九八	三、四三六	三、四三六	三、一七二

ABUGUNPO

(20)

德	地	生	篠	川	佐	明	三	山	椿	椿	萩	町	種	目	合
佐	福	雲	生	上	並	木	見	田	東	分	種	種	種	種	計
一〇、二九九	五、九三三	八、〇三一	七、七七八	九、五五六	六、八九八	六、〇九二	六、六七六	一〇、二四〇	七、五二二	一七、九七六	二五、六三四	稅	額	一三、九三三	
一、二一〇	六三〇	九六五	五一	七四五	四六三	四四二	五三三	九四五	五四一	一、六七八	三、四六三	現住戶數	全	二、八六三	
八、四四五	九、四〇〇	八、三二三	一五、二二一	一一、八二六	一四、八九八	一三、七八二	一一、八五七	一〇、八三五	一三、八八五	一〇、七二三	七、四〇二	全	一戶當	五、一六五	
五、三九二	三、二七六	四、六五三	二、六六〇	三、八三七	二、七四五	二、四七九	三、六四〇	五、二四七	二、四八七	八、七九二	一七、三五三	現住人口	全	一一、九一三	
一、八九五	一、八〇七	一、七五〇	二、九二四	二、四九〇	二、五一一	二、四七七	一、八三四	一、九五二	三、〇二〇	二、〇四四	一、四七七	全	一人當	一、〇〇九	
三、八〇	二、七〇	四、七三	三、一〇	五、一五	四、八四	四、四八	一、〇〇	九六	九五	一、〇〇	五、六	積	一	七〇、九五	
二、六八八	二、一九三	一、六九七	二、四三〇	一、八五五	一、四二五	一、四九〇	六、六七	一〇、七七六	七、九〇七	一七、九七八	四、七七五	一	方里當	一、五九一	

士 規

一、凡を生れて人となるや、宜しく人の禽獸に異る所以を知るべし、蓋人に五倫あり、君臣父子を最大と爲す、故に人の人なる所以は忠孝を以て本と爲す。

一、凡そ皇國に生るるや、宜しく吾が宇内に尊き所以を知るべし。

蓋皇朝萬葉一統、邦國の士夫、世々祿位を襲き、人君民を養ひ、以て祖業を續き、臣民は君に忠に、以て父志を繼ぎ、君臣一體、忠孝一致、唯吾國を然りと爲す。

一、士道は義より大なるはなし、義は勇に因て行はれ、勇は義に因て長ず。

一、士行は實實欺かざるを以て要と爲し、巧詐過をかざるを以て耻と爲す、光明正大、皆是に由て出づ。

一、人古今に通せず、聖賢を師とせずんば、則ち鄙夫のみ、讀書尙友は君子の事なり。

一、成徳達材は、師恩友益多きに居る、故に君子は交遊を慎む。

一、死而後己の四字、言簡にして義廣し、堅忍果決、確乎として抜くべからざるは、是を舍きて術なきなり。